

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171700198		
法人名	有限会社 ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ		
所在地	北海道瀬棚郡今金町字今金358-13		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	平成27年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・私たちのケア理念「その人らしい生き方を大切にし、穏やかで安心した生活を提供します」
 ・私たちは、利用者一人ひとりの生活と人格を尊重し、見守り、支え合いを第一に、できることはしていただき、日々のささやかなゆしみを大切に、自由で誇りのある暮らしを、みなさまと共に創っていきたくと考えています。
 ・私たちのホームは市街地のほぼ中央を横断する遊歩道「オランダ通り」に面しているので、緑に囲まれ静かな環境に立地しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=rue&JigyosyoCd=0171700198-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 27 年 3 月 18 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

渡島半島北部の内陸に位置する今金町は農業の町で高品質野菜を生産することで名高く、近年、福祉の町づくりでも注目されています。運営者は行政と共に福祉の町づくりに携わり、町内に介護保険事業と介護保険予防事業、障害者グループホームなど幅広く展開しています。町の中心部に立地している当ホームの目前にある桜並木の遊歩道は利用者地域の方々との交流の場でもあり、オランダ広場のチューリップや桜の花を満喫して挨拶を交わしながら散歩をしています。職員の定着率が良いホームで、ホーム長は豊富な経験を活かして日々、職員とコミュニケーションを図り、運営者は定期的に個人面談を行い就業環境の整備に努めています。利用者は住み慣れた地域の中で、その人らしく、穏やかな生活を確保しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念をかかげ、毎月の職員会議で復唱し、職員全員で意識し、コミュニケーションを深め、共有している。	法人の運営方針を基に、利用者が地域の中で自分らしく、穏やかに安心して暮らしを継続できることを重視した支援の「ケア理念」を作成して全職員で共有し、実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	すえひろ夏祭りや地域の行事等への参加、日常的にあいさつを行なうなど交流している。	町内の夏祭りには神輿行列と子供達の踊りが玄関先で披露され、ホームのすえひろ夏祭りには、地域の方々が多数訪れ、利用者との交流をしています。ボランティアや中学生の職場体験などの受け入れも積極的に地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流広場を開催し、認知症について理解をいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方々や地域の方々、利用者の家族と意見交換を行っているが、なかなかむずかしい所もある。	近くの系列のホームと隣接の小規模多機能事業所と合同で定期的に開催している運営推進会議は、町担当者、地域包括支援センター職員、地域住民と家族が出席し、行事活動報告、運営状況、避難訓練などが協議されています。	ホームの行事と一体化させて開催している時もあるので、行事記録とは区別して、ホームとしての運営推進会議の議事録を整備し、協議された内容と参加メンバーからの質疑応答なども含めて、記録されることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員とコミュニケーションを図り、相談したり指導を受けたりしている。	ホームは町の福祉分野全般にわたる業務委託業者として、行政と共に福祉の町づくりに携わり、サポーター養成講座やストレッチ体操を取り入れた介護予防講座を実施するなど協力体制を構築しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し理解を深め日々のケアを見直ししながら、スタッフ間で「声掛けしながら取り組んでいる。	職員は身体拘束の内容とその弊害を認識しており、職員会議などを通し利用者が抱えている不安や混乱などの要因を話し合い家族と連携しながら、抑圧感のない暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、利用者の状態や職員同士コミュニケーションを図りながら、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者や家族の状況について個別に話し合う場があり、又研修に参加し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に担当者と管理者が立ち会い説明を行い、利用者、家族の不安、要望などを共有し、安心して頂けるようコミュニケーションを図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口を設置し、信頼関係を大切に、話し合いを多くしている。	家族の面会時に職員は状況報告をしながら、意見や要望を聴取しています。提案された課題は検討し、運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議などで情報を共有し（機会を設け）反映に努めている。	運営者とホーム長は日頃から職員とコミュニケーションを図り、職場環境の整備に努め、定期的を実施する個人面談で悩みや資格習得など忌憚のない意見交換が行われ、働く意欲の向上や質の確保に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に資格取得や研修への参加などで向上心を持ち、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加させてもらい、その機会に恵まれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	としべつ道場などの勉強会などで交流に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に思っている事を、自然体で気軽に話せるようにコミュニケーションを重ねている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や思いを受け止める機会を作り、安心してもらえるようにコミュニケーションに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、状況に応じた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の認知を理解し、出来る事を日々継続して共に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時等、家族と話し合いながら、点滴等の付き添いの支援をして頂いたり、買物や食事等共有し、その日を楽しみにしている利用者もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節によって本人の行きたい所等、コミュニケーションを取りながら支援している。又、なじみの人たちの面会も気軽に来て頂けるような雰囲気作りに努めている。	地元出身の利用者が多いので、幼な馴染の方、友人、知人の訪問があります。お盆や正月の帰宅と定期的な外泊は、家族と協力しながら支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員で利用者の認知面を把握し、本人が安心できるように意識し、個別ケアを優先し、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も地域の人とのなじみの関係は継続されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用しながら、日常生活の中でも本人の思いを受け止めながら、職員の思い込みを優先しないように努める。	職員はセンター方式の共通シートを使用し、本人と家族に関する情報や気づきを共有しながら思いや意向を把握し、介護計画にも反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の本人との会話や生活歴の把握など、コミュニケーションを大切にしながら支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況、バイタルチェックなどで現状を把握し、共有、支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用し、本人、家族の思いをケアプランに反映し、3ヶ月、6ヶ月とモニタリングを行い、ケアプランを作成している。	センター方式の介護計画は丁寧なアセスメントで本人・家族の意向を取り入れ、主治医の意見と職員のアイデアを反映し、ユニット会議の中で課題の有無を話し合い、介護計画を作成しています。計画の実施状況は日誌に赤ペンで記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を活用し、日々個人記録を意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者の状況で、出来る限りの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の避難訓練への参加協力。慰問などで楽しく過ごせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の病院に定期受診し、訪問受診など、本人、家族に安心してもらえるよう、看護師と職員、病院と連携をとっている。	町立病院を従来のかかりつけ医としている利用者が多く、月2回の定期受診をしています。月4回の訪問看護師による健康管理が行われ、緊急時や夜間体制も整えており、医療機関と連携を密にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の気付きなど利用者の変化を、看護師に報告し、相談しながら受診などの支援をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、本人と家族とで「状況把握し、共有し支援する。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所と家族と話し合いの場を持ち、主治医とも話し合いをしながら安楽な終末を家族と共有している。	入居時に重度化や看取りに関するホームとしての指針を説明し、家族の同意を得ています。職員は利用者が終末期を迎えた場合には家族を支え、身体的、精神的支援ができるよう研修会で研鑽を重ね、チームで取り組む体制を整えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防の協力を得て応急処置の研修会を実施している。又、看護師と急変時の対策を話し合っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を行い、地域住民の方々にも協力して頂いている。	消防署の指導の下、日中・夜間想定で年2回地域住民の参加で災害訓練を実施しています。消防署との自動通報装置が完備され、近所や地域消防団との緊急連絡方法や協力依頼も整えており、備蓄品も準備しています。	系列の事業所を避難場所として確保していますが、利用者が訓練に参加すると共に、職員間の通報訓練なども実施することを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が声掛けや関わる際に意識して対応しているが、時に上から視線になってしまっている時もある。	職員は利用者個々に応じた声掛けを心がけ、馴れ合いの中で、本人の尊厳を無視した対応が見受けられた時にはロビー以外で注意を促すなど、プライバシーの確保に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図りながら自己決定できるように、思いを受けとめながら支援できるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を大切に個別ケアに取り組んでいるが、職員側の都合により出来ない時もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪長さなど、本人の希望や好みを大切に支援につなげている。(自分の親だったら、と意識しながら)			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食事の下準備など、出来る事は共に 行い、ホットプレートの使用などで目の前で一緒に 作って楽しんでいる。	利用者は能力に応じて買い物や調理の下ごしらえ、 芋の皮むき、盛り付けなどを職員と共に行っていま す。中庭にある家庭菜園で新鮮な食材を採り入れ、 利用者の好みを踏まえたメニューを工夫して食事を 提供し、ドライブの時は外食を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	水分量はチェック表に記入し、食事の形状も個々の 状態に合わせて食べやすいように工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後、就寝前に声掛けし、その方に合った口腔ケ アを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の行動・排泄パターンを把握し、声掛け、誘 導したり、その方に合ったパットを使用したりの支 援を行っている。	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンと習慣を 把握し、声掛けや誘導など自立に向けた支援をして います。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる	水分・排泄チェック表に記入し、体操、乳製品等で 工夫し、個別に下剤の調整も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽 しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決め てしまわずに、個々にそった支援をしている	その人の体調を確認しながら気持ちよく入れるよう 努めているが、本人のタイミングで入れない時もある。	週2回を目安に入浴しています。車椅子使用の利用 者で2人介助でも困難な時には家族の了解を得て シャワー浴にしたり、町内の温泉を利用するなど 個々に合わせて入浴支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援 している	各自の居室やソファなどで自由に安心して休息で きるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	全職員で薬の情報を共有し、誤薬や飲み忘れのない ように声掛け見守りを行い、看護師とも状況を共有 している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや本人に合った役割をコミュニケー ションの中から見つけて把握し大切に、支援や気 分転換して頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物やドライブ、家族との果物狩りなど行っている。又、いつでも家族と出かけるよう支援している。	ホーム目前にある旧国鉄の線路跡の桜並木の遊歩道は利用者の散歩の場所でもあり、近くのオランダ広場でチューリップなどのお花を見たりしています。天気の良い日は短時間でも戸外に出て五感刺激を得られる機会として捉え、外出の支援に取り組んでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら、本人が使い時に（自分で出来る人は）使えるようにし、出納簿に記入したりしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、写真入りの年賀状を出している。電話も（状況にもよるが）掛けたいと希望があれば掛けて支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に写真や季節の絵を貼ったりして楽しめるようにしている。又、湿度や音などにも気を配っている。	玄関・事務室が中央にあり、両サイドにユニットがある平屋造りのホーム内は利用者と家族との記念写真が飾られ、食卓テーブルやソファが家庭的に配置されており、明るく、清潔感があり、不快な臭いや音もなく、季節に合わせた装飾がされています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやソファ、小上がりなどでなじみの人同士で思うようにくつろげるように工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真などを飾ったりして工夫をしているが、症状の進行によっては殺風景になる居室もある。	居室は在宅当時のタンス、人形、夫の写真や家族の写真が飾られクローゼットとスプリンクラーが設置されています。本人、家族と相談しながら馴染みの物を活かして、その人らしく暮らせる部屋に工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱のないように、場所に名札をつけたり、手すりの設置などし、職員同士話し合いながら工夫して安全、安心できるよう努めている。			